

「借虎威」発展学習

() H () 番 氏名 ()

「借虎威」の出典は『戦国策』である。戦国の七雄と呼ばれる七つの大国（韓・魏・趙・燕・斉・楚・秦）が覇を競い、死闘を繰り返していた時代、諸国を巡って陰謀策術を説く遊説家たちが活躍した。『戦国策』は彼らの言動を生き生きと描いた書なのである。そんな書物に狐の虎と百獣が登場する動物話があるのは不思議である。『戦国策』の本文を見ると、教科書採録部分の前後に次のような短い文章がある。読んで、この話の真のテーマに迫ろう。

前文 荆宣王問群臣曰、「吾聞北方之畏昭奚恤也。果誠如何。」群臣莫

対。江乙対曰、「

教科書 「(中略)

後文 今、王之地、方五千里。带甲百万、而專屬之昭奚恤。故北方之畏奚

恤也、其畏王之甲兵也。猶百獣之畏虎也。」

【解釈】

荆の宣王が群臣に問うて言った。「わたしは、北方の国々が昭奚恤を畏れていると聞いている。果たしてまことか。」群臣で答える者はいなかった。時に江乙が進み出て言った。

「(中略)さて王よ。今や王の領地は五千里四方にも及び、王の軍兵は百万に達しています。王はそれを専ら昭奚恤に任せています。ですから、北方の諸国が昭奚恤を畏れますのは、実は王の兵力を畏れているのでありまして、それはちようど、獣たちが虎を畏れたのと同じことなのです。」

- * 荆：楚の国の別名。中国古代に長江（揚子江）中流域にあった国。
- * 北方：黄河流域の諸国。韓・魏・趙・燕・斉・秦などの国々を指す。
- * 昭奚恤：楚の王族。当時楚の宰相の位にあった実力者。宰相とは天子や王を助けて政治を行う大臣のこと。
- * 方五千里：五千里四方。広大なさまを表わす。当時の中国の一里は、約四〇〇メートル。

問一 江乙は、百獣・狐・虎を誰のたとえとして用いたか。

板書・メモ

百獣 〓 へ 〓

狐 〓 へ 〓

虎 〓 へ 〓

問二 虎と狐のたとえ話を使って、江乙は宣王に対してどんなことを主張しようとしたのか。

(自分の答え)

Blank box for student answer.